

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	5 7	学校名	県立江戸崎総合高等学校				課程	全日制			学校長名	川田 利行					
教頭名	朝日 靖											事務(室)長名	菅澤 浩明				
教職員数	教諭	34	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手	7	事務職員	4	技術職員等	7	計	63	
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	総合学科		87	57	72	40	66	54			225	151	12				

2 目指す学校像

(1) 規律を重んじながら生徒一人ひとりの個性を伸ばす、創意と活力に満ちた学校
(2) 地域の様々な教育的ニーズに応え、生徒、保護者及び地域住民に広く信頼される学校
(3) 探究による学びを通して、生徒一人ひとりの興味・関心、能力・適性に応じた進路の実現ができる学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	○自ら学び、自ら考える意志をもって、意欲的に学習活動に取り組むことができる生徒 ○江戸崎総合高校生としての誇りをもち、地域社会の発展に貢献できる生徒 ○調和のとれた豊かな人間性や社会性を備え、よりよい社会を実現しようとする生徒
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○生徒一人一人の個性を伸ばし、個々の教育的ニーズに応じた教育内容の充実 ○進路希望の実現に向けた、キャリア教育の充実 ○I C Tの活用など多様な学びの機会を通した、広く社会で通用する思考力・表現力の涵養
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○互いを認め、高め合って協働し、切磋琢磨しながら成長しようとする生徒 ○基本的な生活習慣と基礎学力を身に付け、意欲的な学習を継続しようとする生徒 ○進路希望の実現に向け、主体的・意欲的に行動しようとする生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	学力や学習意欲に関して多様な生徒に対応するため、特別進学クラスの設置や少人数による授業展開（英語）を実施している。また、生徒主体による中学校での出前授業をはじめ、地域連携活動をとおして、生徒の自己肯定感・有用感を高める指導を推進している。さらに、各種検定試験の全員受験を実施し、3年次における資格保有率が向上するなど、一定の成果をあげている。	・基礎基本の理解の徹底を図る指導の在り方や授業改善等 ・習熟度や個に応じたきめ細かな学習指導の実践 ・各種検定試験の全員受験を継続し、受験に向けた取組の充実 ・進学者への学習指導の組織化
進路指導	進路希望は、就職から国公立大学進学まで、生徒一人ひとりの希望は多岐にわたっている。就職については、学校を通しての就職内定率が約99%になるなど、高い実績をあげている。進学については、生徒の希望に応じた組織的かつ継続的な取組により全員の進路実現を果たした。	・大学等進学者の増加 ・インターンシップの充実 ・早期の離職防止対策 ・進路別の継続的、組織的な指導体制の構築
生徒指導	生徒の規範意識を高めるため、積極的な指導を通して生徒指導を行っている。昇降口指導や服装指導を全職員で継続することによって、年度末には生徒の生活態度は改善した。また、きめ細かな交通安全指導を継続し、一定の成果が見られた。家庭と連携した指導と教職員全体の指導実践をさらに一致させ、指導体制をより強固にしている。	・標準服の着こなしや規範意識の向上 ・登校時の遅刻指導や時間を守らせる指導の徹底 ・生徒の交通安全に対する意識の向上 ・家庭と連携した交通事故防止の指導の充実
特別活動	生徒会役員の定例会を毎週1回行っている。また、応援団、文化祭実行委員会に多くの生徒が積極的に参加するようになった。ボランティア活動にも熱心に取り組んでいる。特別活動を通じた活動記録を、「江総ポートフォリオ」（キャリアパスポート）に記録している。	・学校行事への生徒の主体的な取組 ・部活動加入率の向上と顧問の負担軽減 ・地域ボランティア等への積極的な参加 ・総合的な探究の時間等でのキャリアパスポートの活用
働き方改革	勤務時間外の在校等時間が月45時間を超過している教員が一部存在する。	・テレワークシステム、勤怠管理支援システム、電子決裁システムなどの導入による、教職員が働きやすい勤務環境を整備

5 中期の目標

- | |
|---|
| (1)新学習指導要領に対応し、生徒に興味・関心をもたせる題材や指導法の工夫改善に取り組む。
(2)人権教育や道德教育の指導改善を通じて心の教育の充実を図る。
(3)生徒の進路希望実現のために、進路ガイダンスや科目選択のためのきめ細かな指導体制を構築する。
(4)学校の実情（進学・キャリア）や地域のニーズ（連携）に対応した教育内容の充実を図る。 |
|---|

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
基礎学力の向上と個に応じた学力の定着に向けた授業改善	・授業に臨む基本的な態度を育成し、学力の定着を図る。また、主体的に学ぶ意識を育成する。 ・I C Tを活用した教育の推進を目指すと共に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。 ・生徒に興味・関心を持たせる授業を工夫し、知識・技能の習熟を図る。また、各種検定試験の合格を目指す。 ・生徒の授業満足度について、生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見8割以上
基本的生活習慣の確立と規範意識の育成	・頭髮・服装・遅刻指導について、日常的・継続的な生徒指導を徹底する。 ・保護者に対して、様々な機会を通して規則・規律の尊重についての理解を求める。 ・生徒指導に対する職員間の共通理解を深め、一致協力して指導にあたり、充実させる。 ・授業や学校行事で5分前を意識した行動に努める。
進路希望の実現と指導体制の確立	・生徒の多様な進路希望をふまえ、個に応じたきめ細やかな進路指導の充実を図る。 ・インターンシップを実施し、進路について自ら考え主体的に決定できる力を育てる。 ・「産業社会と人間」の時間の一層の充実を努め、3年間を見通した進路シラバスに基づく指導を実践する。 ・模擬試験や資格取得を推進し、進路希望の実現を図る。
地域と連携した学校づくりの推進	・家庭や地域社会と連携した、開かれた学校づくりに務める。 ・「各県立学校等チャレンジ・プロジェクト」を通して、地域貢献、地域連携、地域共生を目指した教育活動を展開する。
生徒の主体的活動の充実	・部活動へ積極的に参加し、学校生活への興味・関心を高める。 ・学校行事や生徒会活動に積極的に参加できる工夫をする。 ・勤労体験やボランティア活動を通して豊かな心の育成を図る。
働き方改革の推進	・「勤怠管理支援システム」を活用し、教職員の在校等時間と業務分類に応じた時間数の正確な把握を行う。 ・ワークフローシステムを導入し、学校における資料の電子化を推進する。 ・テレワークシステムを導入し、校務効率の向上を図る。